

氏名(本籍)	ふるやのりひと (山梨県) 古屋紀人		
学位の種類	博士(経営学)		
学位記番号	博甲第4182号		
学位授与年月日	平成19年1月31日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	ビジネス科学研究科		
学位論文題目	REPATRIATION MANAGEMENT EFFECTIVENESS – A MECHANISM FOR DEVELOPING GLOBAL COMPETENCIES THROUGH A COMPREHENSIVE PROCESS OF REPATRIATION – (「企業の海外帰任者の帰任過程におけるグローバルコンピテンシー醸成・活 用のメカニズム」に関する研究)		
主査	筑波大学教授	博士(商学)	永井裕久
副査	筑波大学教授	Ph. D.	河合忠彦
副査	筑波大学教授	工学博士	椿広計
副査	筑波大学教授	MBA	Richard T. Murphy
副査	同志社大学教授	Ph. D.	Philippe Byosiere

論文の内容の要旨

本博士論文は、1) グローバルビジネス環境における帰任者の効果的な帰任マネジメントを規定する要因の探索、2) 海外派遣中に獲得されるグローバルコンピテンシーの特定、3) 海外派遣中に獲得されたコンピテンシーの帰任時の移転、および4) 海外で獲得されたコンピテンシーの帰任後の有効活用が、帰任者の心理的かつ職務並びに組織業績に与える影響を実証的に明らかにすることを目的としている。これらの目的の解明に向け、1) 組織的支援、2) 派遣者個人の異文化特性、3) 異文化適応経験、4) 派遣元企業による帰任施策を独立変数とする影響分析を行っている。分析結果を通して、とりわけ職務に関連した人的資源施策が、帰任後の職務業績や帰属意識に有意な影響を与えることが検証された。

審査の結果の要旨

本論文は、日本人海外派遣者のみを調査対象とし、かつ時系列的な意識変化について横断的分析を用いている点から、分析結果を一般化するには課題を残す部分もある。しかしながら、帰任者の活用に関しては、マネジメント課題として指摘されているにもかかわらず、先行研究が少なく、今後における先鋒を成す意味のある研究成果といえる。また、実務的な側面からも社会的要請に応える適用内容を含んでおり、高度職業人の実務経験を反映した博士論文として十分な要件を満たしていると判断される。

よって、著者は博士(経営学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。